

復興・創生インターン

# 中之作プロジェクト

中之作プロジェクト  
Nakanosaku Project

金子菜々 草野壱成 細川奈々

## 復興・創生インターン

「復興・創生インターン」は、復興庁事業「伴走型人材確保・育成支援モデル事業」の1つであり、岩手県、宮城県、福島県の被災地企業を対象とした実践型インターンシッププログラムである。参加学生は、1ヶ月間の共同生活を通して就業体験を経験し、復興途中にある被災3県の現状を見ながら、各企業が抱える課題に取り組むこととなる。

いわき・双葉エリアでは、NPO 法人タタキアゲジャパンがコーディネート機関となり、中之作プロジェクトを含む6団体においてインターンを行った。

## 中之作プロジェクト

中之作プロジェクトでは、この地域での暮らしをより魅力的なものにするにはどうしたらよいか？をテーマに、中之作・折戸空き家 3D マップ作成のためのヒアリングや街歩きを行った。また、インターンでの体験や出会いを通し、各自が感じた中之作・折戸地区のポテンシャルまとめていき、新しい暮らしのあり方、ここで起こせる事業プランなど、中之作・折戸地区のライフプランづくりを行った。

地域住民との交流を密に行うことで、インターンとして1ヶ月間関わるだけでなく、その後も住民とインターン生が繋がりに続けるようなプログラムとなった。

復興庁 伴走型人材確保・育成支援モデル事業  
 2020年春休み 実践型インターン 参加学生募集!!  
 復興庁 伴走型人材確保・育成支援モデル事業  
 東北の被災地で挑戦しよう!!  
 過去2年インターン生の96%以上が「自分の成長に繋がった」と回答!!  
 PASONA

福島のいわき・双葉郡ブロック 地域実践型インターン 参加学生募集  
 2020 spring 2.13 ~ 3.12  
 応募締切 2020.1.31(金)  
 プロジェクト一覧  
 1. 中之作プロジェクト  
 2. ふるさとを守る友の会  
 3. I-step株式会社  
 4. 一般社団法人とみかかブラス  
 5. 絆はく製靴株式会社  
 6. 学校法人 朝陽学園  
 インターン概要  
 応募方法



## 参加学生



金子 菜々 (かねこなな)

宮城県出身  
東北芸術工科大学  
デザイン工学部 コミュニティデザイン学科



草野 壱成 (くさの いっせい)

福島県出身  
工学院大学  
建築部 まちづくり学科



細川 奈々 (ほそかわ なな)

神奈川県出身  
横浜市立大学  
国際商学部 国際商学科



## 活動スケジュール

今回のインターンは1ヶ月間に及び、中之作プロジェクトのプログラムでは、ヒアリングや3Dマップの作成に挑んだ。多くの地域の方々と関わる中で、この地域の成り立ちや中之作・折戸での生活を知る1ヶ月を過ごした。

また、いわきや原発沿岸の歴史や復興状況を実際に見る機会もコーディネート機関のもと準備されており、中之作・折戸だけでなく、いわきとその周辺について知る1ヶ月ともなった。

### 2020年2月

	9	10	11	12	13	14	15
					いわき到着 浜魂	全体 オリエン	いわき ツアー
16	17	18	19	20	21	22	
休日	中之作PJ オリエン 作戦会議	DIY ベンチ作り	ヒアリング① 海からの中之作を知る 街歩き	ヒアリング② 魚捌き体験	ヒアリング③	1週間後 面談	
23	24	25	26	27	28	29	
街歩き 調査資料集め	休日	ヒアリング④ 街歩き	ヒアリング⑤	休日	中間研修	DIY見学 ヒアリング ⑥⑦	

### 2020年3月

	1	2	3	4	5	6	7
チラシ作り	休日	交流会 清航館宿泊	空き家調査①	マップ作り	原発沿岸 ツアー	マップ作り	
8	9	10	11	12	13	14	
休日	空き家調査②	空き家調査③ 空き家勉強会	マップ作り	マップ作り	成果発表会 修了研修	帰宅	

## プログラム

### ● ヒアリング

ヒアリングでは以下の7名にインタビューを行い、それぞれの視点から見た中之作・折戸の生活や歴史についてを教えてくださいました。詳細は別資料にまとめてある。



- |                       |                    |
|-----------------------|--------------------|
| ① 坂本正男さん／正子さん (坂本つり具) | ⑤ 松本茂さん (『中之作村』著者) |
| ② 和深祐司さん (丹造水産)       | ⑥ 佐野久美子さん (中山医院)   |
| ③ 吉田忠正さん (元折戸区長)      | ⑦ 中山元二さん (中山医院)    |
| ④ 吉田敏徳さん (菊屋)         |                    |

### ● 空き家調査

空き家調査では中之作地区2軒、折戸地区1軒の空き家調査を行った。調査では、空き家の状態や管理状況、今までの使われ方についてのヒアリングや空き家の図面作成などを行った。詳細は別資料にまとめてある。



## ● DIY ベンチ作り

インターン中の課題テーマの1つとして、交流空間（パブリックスペース）の減少がある。今回の調査で、中之作・折戸地区は昭和期に水産業で最盛期を迎えた地域であり、その頃には商店や飲食店が多く、その場所での交流も多く行われていたという事がわかった。現在では水産業の衰退や人口の減少に伴い、それらの場所や機会の減少が進んでいる。

今回のインターンでは、初日に DIY でベンチ作りを行った。ただ、椅子を作ったという事では無く、人がそのイスに座るためやそこからの景色、座りながらのアクティビティを目的として集まる事ができる「きっかけ」を自分達の手で作り出すことを通して、パブリックスペースの重要性を知る始まりとなった。



## ● 海からの中之作を知る

中之作・折戸を知る1つの視点として、海からの景色がある。今回は坂本さんにご協力いただき漁船に乗せてもらった。

きっとこの景色は、漁で長い間海に出る人たちにとっては特別で、この景色を最初に見て帰ってきたことを感じるのかと思うと、ただの風景では無く、中之作・折戸の生活の中で特別なワンシーンの1つなのだと感じる事ができる経験となった。



## ● 魚捌き体験

中之作・折戸の食生活では、魚を食べる機会が多くある。魚を買うことはほとんど無く、自分たちで捌いて食べるのが普通だったとヒアリングの際に聞くこともあった。

今回は、和深さんにご協力いただき、魚の捌き方から魚料理の作り方まで教えてもらった。交流会の時には、教えていただいたことを思い出しながら自分たちでアジのたたきを作る機会もあった。



## ● 街歩き（中之作編）

速水さんにご協力いただき中之作の街歩きを行った。榎戸と戦では、元中之作区長さんにもご協力いただき街歩きをした。街歩きの中では、空き家を中心に教えていただき、それぞれの地域についてもお話いただいた。

別の日には、松本茂さんのご家族にご協力いただき、中之作にある「たびらんばひめ墓」の場所もご案内いただいた。



## ● 街歩き（折戸編）

折戸地区では、坂本さんにご協力いただき街歩きを行った。岸浦と江ノ浦の境界にある「鶴の間」の場所や、空き家について教えていただいた。



## ● 交流会

インターン期間中には、この地域での生活を体験するためとヒアリングなどでお世話になった方々へのお礼のために交流会が開催された。中之作港を中心として1つの地域に見える中之作地区と折戸地区だが、両者の住民が今回のように交流する機会はありませんらしく、地域住民の中でも珍しい場となった。

参加者からは今後もこういった機会が増えるといいなど、好印象なイベントとなった。調査などでもわかるように中之作・折戸地区での交流空間は減少している現状がある。そういった状況の中で、月見亭や清航館を活用して、地域住民とのこういった交流の時間が作られていくといいなと感じる事ができるイベントとなった。

また、インターン生にとっても中之作の食卓や生活がリアルに体験できる機会となった。



## ● 空き家勉強会

中之作・折戸地区での成果発表会として空き家勉強会を開催した。勉強会にはヒアリングでお世話になった方々やいわき市役所の職員、市議会議員の方が出席し、インターン生がこの1ヶ月間で行った活動内容や空き家調査を行った結果、中之作・折戸の変化などについてプレゼンテーションを行った。プレゼンテーション内容は『成果発表』にまとめてある。



発表終了後は、参加者全員での意見交換が行われた。調査内容の発表で不明だった点や、インターン生から見た中之作・折戸の印象についての質問が中心にあがり、参加者全員の間で活発に議論が生まれる時間となった。



## ● 月見亭フリーオープンデー

中之作・折戸で過ごすインターン最終日には、月見亭でフリーオープンデーを開催した。メインのターゲットとしていた中高生の参加は叶わなかったが、インターンでお世話になった方々と最後に会う事ができた機会となった。



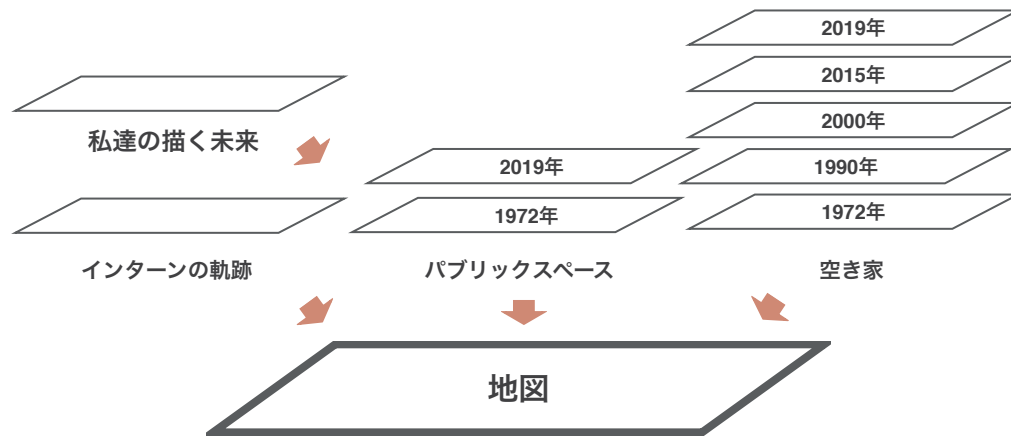
## ● 植樹祭

月見亭フリーオープンデーを開催した際に、坂本さんが河津桜の苗木を持ってきてくれて、急遽植樹祭が開催された。月見亭に来ていた皆さんと一緒に最後の思い出づくりをする事ができた。



## 空き家3Dマップ

今回のインターンでの成果物の1つとして「空き家3Dマップ」がある。空き家3Dマップとは、下にある図のように様々な項目をレイヤー毎に重ねることで、平面の地図を必要に応じて立体的に見る事ができるようにしたものである。



今回は空き家3Dマップを構成するレイヤーとして、「インターンの軌跡」「空き家」「パブリックスペース」「私達の描く未来」の4種類を作成した。

インターンの軌跡では、これまでに紹介したような復興・創生インターンを通して見てきたものや出来事、お世話になった方々へのメッセージをまとめている。

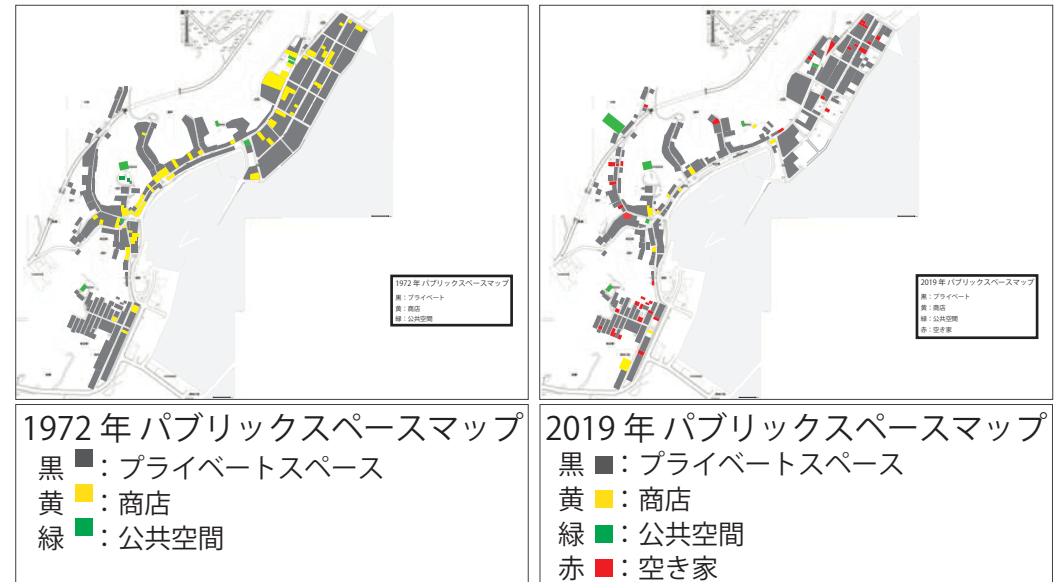
空き家、パブリックスペースでは、それぞれの年代毎に空き家や公共空間がどのように変化しているのかをまとめている。

私達の描く未来では、50年後の中之作・折戸を舞台にどの風景を残したいかをまとめた。

## これまでの変化

### ● パブリックスペース

パブリックスペースでは、水産業が盛んに行われていた1972年と現在の2019年で商店や公共施設といった人々が交流できる空間がどのように変化してきたかをまとめている。



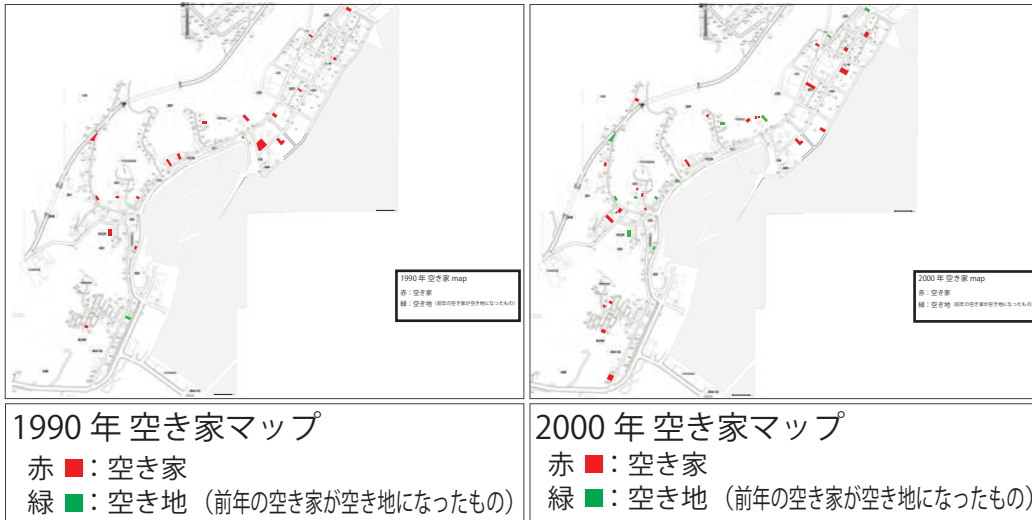
それぞれの年代について、住居などのプライベート空間を黒、商店を黄、公共施設を緑で表している。また、2019年では空き家を赤で表している。

パブリックスペースの作成では、1972年から2019年にかけて、黄色い部分である商店の数が激減していることと、全体として建物の密度が減少している事がわかる。これらの事から、商店や公共施設で発生していた偶発的な出会いの機会が減少し、結果として地域内での交流が減っているのではないかという事がわかった。



## ● 空き家

空き家では、水産業が盛んに行われていた1972年と徐々に衰退していく1990年、震災前の状況として2000年、震災後の状況として2015年、そして現在の2019年のレイヤーを作成した。

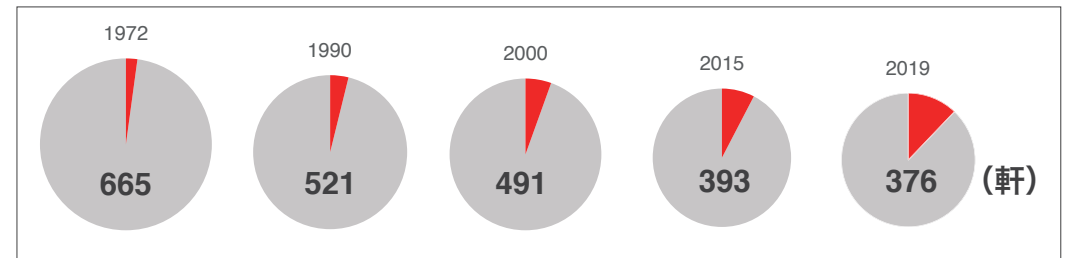


それぞれの年代について、空き家を赤、前年のレイヤーで空き家だったもので空き地になったものを緑で表している。1990年から1972年にかけては、空き家だったものが多く空き地になっている事がわかる。

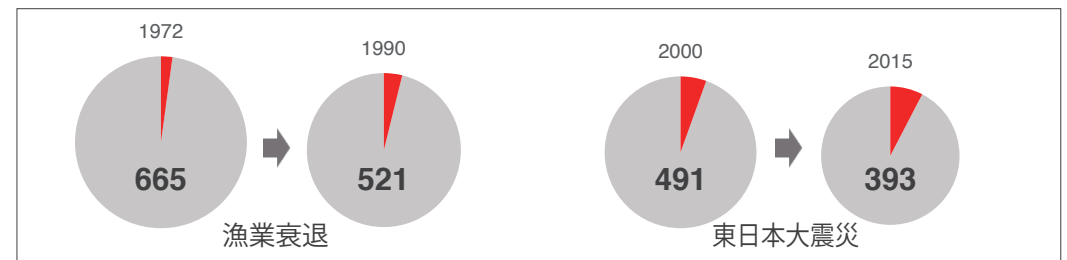
今回作成したパブリックスペースマップと空き家マップをもとに中之作・折戸での戸数の変化と、そのうちに含まれる空き家の割合について調べた。

下のグラフでは、戸数の変化を円の大きさと表現している。水産業が盛んに行われていた1972年が最も円の大きさが大きく、戸数が多かった事がわかる。

赤い部分はその内の空き家の割合を表している。年が進むにつれて円の大きさが小さくなるのに対して赤の割合が大きくなっている事がわかる。



その内、特に大きな変化のあった1972年→1990年と2000年→2015年に着目すると以下ようになる。



1972年→1990年と2000年→2015年の変化では、それぞれ100戸程度減少しており、空き家の割合も大きくなっている事がわかる。

また空き地への変化を見ても、空き家になった数十年後には空き地になっている事がわかり、空き家は空き地予備軍であり、風景を保存するためには空き家になる段階やその前から食い止める事が重要だという事がわかった。

## 理想の50年後

今回のインターンでは、中之作・折戸地区のライフプランの提案として、理想の50年後を「残したい風景」と「未来のライフスタイル」から考えた。

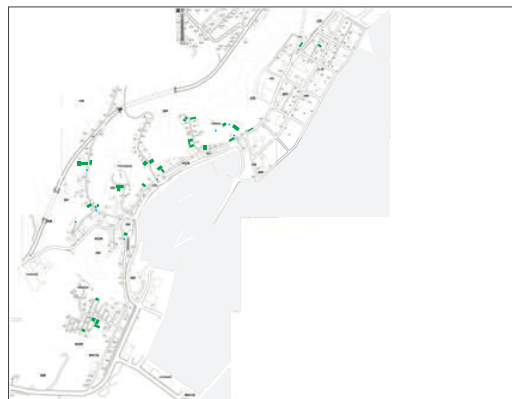


### ● 私達の描く未来

「残したい風景」は私達の描く未来として、3Dマップのレイヤーにまとめた。このレイヤーでは、残したい建物を緑、残したい風景を青で表現した。

期間中に何度も中之作・折戸の街中を歩いて周る中で残したいと思える建物や風景が増えていった。

最終的にまとめる過程では、港町の名残がある建物や風景を多く残したいと感じていた。残したい建物では、木造でもともと船主宅や商店だったなど漁業関連の建物が多く、残したい風景では、中之作港を中心とした海の入った風景や山沿いや坂道沿いにあるような港町らしい民家が立ち並ぶ風景を残していきたいと感じた。



### ● 未来のライフスタイル

今回のインターンでは、未来のライフスタイルとして「生きがいのあるまち」といものを提案した。様々な生きがいがある中で、今回は特におじいちゃん、おばあちゃん世代に着目している。

これらの結論に至った経緯には、中山医院の佐野先生へヒアリングしたときの話がある。佐野先生のお話の中で、生きいきとした地域を作る上で高齢者が役割を持つ事が重要だというお話があった。

佐野先生からのお話を受け、今回の最終提案では、おじいちゃんやおばあちゃんが生きいきと趣味の活動を行う事ができるよう、地域内で部活の実施とその活動の拠点となる部室を空き家を使って作るという提案があげられた。



#### 絵画部

- ・隠れ家
- ・細かく部屋が別れている
- ・日当たりが良い

#### 釣り部

- ・海が近い
- ・釣り小屋風

#### 畑部

- ・倉庫風
- ・道具置けるスペースがある
- ・休憩ができる
- ・コミュニティガーデンで育てる

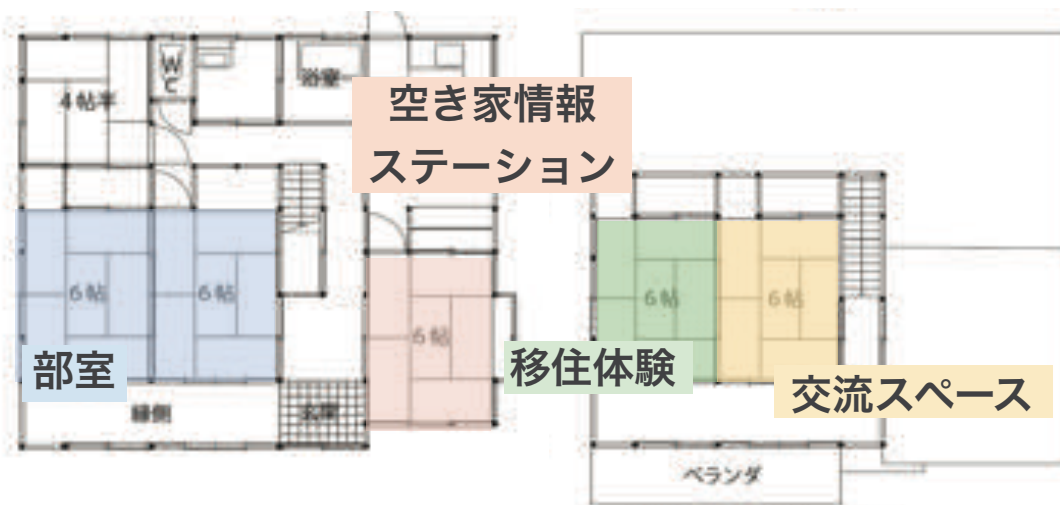
#### 読書部

- ・書斎がある
- ・色々な場所が見える
- ・図書館風

## 空き家情報ステーション

最後に生きがいのある町を実現するために今できることとして、空き家情報ステーションをどのように作るかについて考えた。

空き家情報ステーションでは、中之作・折戸地区にある空き家へ移り住みたいと考える人と実際にある空き家をつなぐことを目的とした施設となる。しかし、これだけの機能では地域の人からは遠い存在となってしまう、一般的な不動産会社と同じようなものになってしまうという懸念がある。そこで今回の提案では、空き家情報ステーションの考え方に先ほどの部活動や移住希望者の体験移住が可能となる施設を付随することで、より地域に近く移住者と住民の交流を作り出せる施設になるのではないかと考えた。実際に、今回の空き家調査で調査した物件にこれらを当てはめると以下のようなになる。



## インターンシップを通して

今回のインターンシップを通して、これまでに説明してきた空き家3Dマップなどの成果物を作成できた以外にも3つの効果を中之作・折戸地区で発生させる事ができたのではないかと考える。

まず1つ目が中之作・折戸住民の交流である。中之作港を中心として1つに見える中之作・折戸地区だが、今まではあまり両者が交流する機会は作られずに来た、インターン生というよそ者が仲介する事でそれらの交流を作り出す事ができたのではないかと考える。

次に地域の魅力を再発見できたという事である。インターン生からみる景色は、普段住民が見ているものとは少し違い、住民にとって普通の景色がインターン生にとっては魅力的に見えることもあった。

最後に空き家情報の提供が活発的に起こった事があげられる。今までの感触では、今回のインターン期間中での空き家調査は1軒程度だろうと想定していたが、最終的には3軒も調査する事ができた。また、今回のインターン期間中にはできなかったものの今後の調査が可能になるかもしれない物件もいくつか見つけ出す事ができた。

今回のインターンでは、様々な方にご協力いただき中之作・折戸地区への理解を深める事ができた。また、空き家問題は人と人の関係性がとても重要だという事がわかった。今後も住民との交流を密に作り出しながら空き家問題に取り組む必要があるだろう。